

てんさいの病害虫対策

感染したてんさい



背景

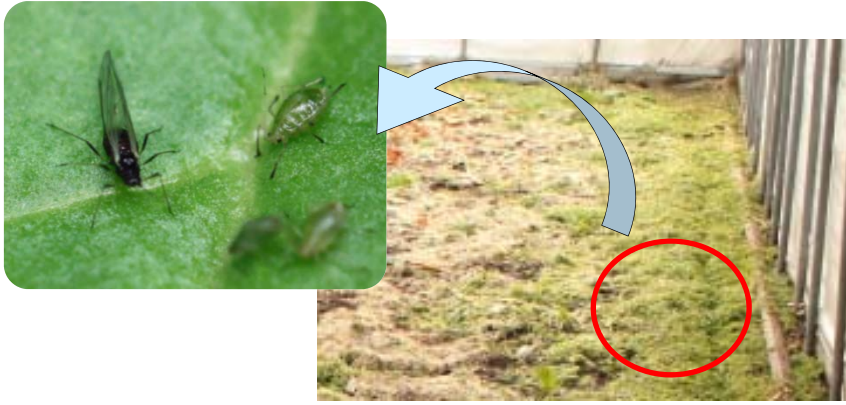
せいふいおうびょう

てんさいの西部萎黄病*が全道的に大発生し、農薬による防除効果が不十分

* 西部萎黄病：ウイルスの感染により葉が黄化し、発病株は最大で3割程度減収する病気

成果

1 ウイルスの媒介虫とその越冬場所を特定しました



病原ウイルスを媒介するのはモモアカアブラムシのみでハウス内の雑草などで越冬し、翌春てんさいに寄生する

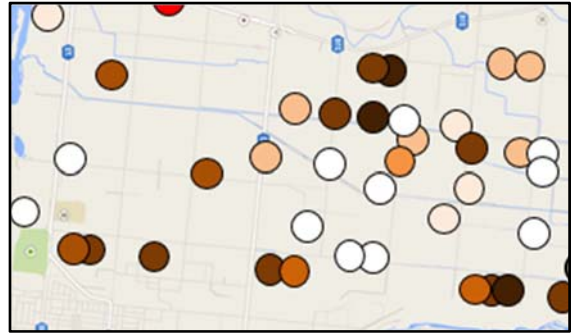
越冬ハウスの適正管理
(雑草や作物残渣の処分)

媒介虫の越冬密度を大幅低減

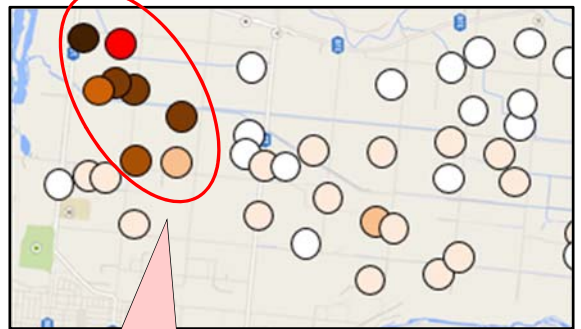
ハウス周辺の
西部萎黄病感染株率の低下

2 地域での越冬ハウスの適正管理が大切です

2014年8月6日



2015年8月2日



越冬ハウスの
適正管理を
すると…

適正管理未実施の
越冬ハウスあり
(薬剤防除のみ)

圃場別西部萎黄病発生量
無 少 ← → 多
○ ● ● ● ● ● ● ●

越冬ハウス適正管理後の西部萎黄病発生状況
(A町B地域)

期待される効果

○地域一体で対策を実施することで、広範囲で発生量を低減できます。